

岡山県へ福祉バスを贈る運動

山陽新聞山陽会

福祉施設の人々に 交流の機会を与える 「山陽しあわせ号」

■実施期間

昭和 54 年 2 月 24 日、平成元年 6 月 19 日、
平成 11 年 10 月 26 日に贈呈

■実施地域

岡山県、広島県、香川県

■活動概要

山陽新聞山陽会は、山陽新聞創刊 100 周年の昭和 54 年 2 月、同 110 周年の平成元年 6 月、同 120 周年の平成 11 年 10 月の計 3 回、いずれも周年記念事業の一環として、岡山県に車椅子用リフト付き福祉バス「山陽しあわせ号」(34 人乗り)を計 3 台寄贈した。

このほか、広島県、香川県の福祉施設に車椅子をはじめ、布団乾燥機、軽福祉自動車を贈っている。これらは加盟販売所による募金の積み立てによるものである。

岡山県内では、平成 13 年度から 18 年度の間、延べ 103 の福祉施設から 293 件の福祉バスの貸し出し申し込みがあり、利用者は 7,232 人に上っている。

*

山陽新聞山陽会＝山陽新聞を販売する 207 販売所が加盟。土井雅人会長。



山陽会報 昭和 54 年 3 月 10 日付 (第 141 号)



山陽新聞創刊 100 周年記念事業で岡山県に寄贈された福祉バス。専用リフト付きで車イスに乗ったままバスへ乗り降りできる。(昭和 54 年 2 月 24 日撮影)



山陽会報 平成元年 7 月 12 日付 (第 219 号)



山陽会報 平成 12 年 3 月 1 日付 (第 282 号)

創刊百二十周年記念の地域貢献事業の一環として、山陽新聞社、山陽会、山陽新聞社会事業団は昨年十月二十六日、福祉バス「山陽しあわせ号」と車いす三十五台を岡山県に贈った。

岡山市内山下二丁目の県議会正門前広場で贈呈式があり、佐々木勝美山陽新聞社長、石井正弘岡山県知事、贈呈は豊かな地域づくりを目指す岡山県に、指す岡山県にとつて大きな後押しになりま

すのままで乗り込み同センターまで約八〇を体験走行した。

バスは二十六人乗りの低床式ワンステップ型。乗降口のスロープを使い車いすのまま乗り降りでき一段と機能アップした。県立総合社会福祉センターが管理、県内の社会福祉施設や老人ホームなどに貸し出されている。車いすは県社会福祉協議会を通じ県下の市町村に協同に分配。

また香川県土庄町の小豆島老人ホーム(杉崎信行園長)と、福山市丸の内のかう性老人のグループホームを運営する「ほんまち平安の家」(平川幾代理事長の二施設には軽福祉自動車

が贈られた。軽福祉自動車は六百六十ccの四人乗りの特別製作車。スロープ付きで車体が下がる仕組みになっており、後部から車いすで乗り降りできる。

「福祉バスを贈る運動」は百二十周年記念日の昨年一月四日から九月三十日まで約九カ月間実施。読者らから募金六百四十九万七千八百二十二円が寄せられ、これに山陽新聞社、山陽会などの拠出金を加え、購入資金に充てた。

アカウミガメ保護 清掃活動

宮崎日日新聞宮日会

軽トラック15台分のゴミを回収 アカウミガメの産卵の一助に

■実施期間

平成11年から毎年5月中旬

■実施地域

宮崎県児湯郡高鍋町の海岸（堀の内浜）

■活動概要

宮崎日日新聞宮日会は、平成11年から毎年5月中旬に、宮崎県児湯郡高鍋町の堀の内浜で清掃活動を実施している。宮崎県はアカウミガメの上陸頭数が全国2位、中でも堀の内浜は県内トップクラスの上陸地である。レッドデータブック（環境省が作成した絶滅のおそれがある動植物のリスト）により、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているアカウミガメは、かなり高い確率で同一場所での産卵を行うため、シーズン前の清掃活動は、アカウミガメの産卵の一助となり、将来的に種の保存につながると考えたのが活動のきっかけとなった。

清掃当日は、県内の全販売所長をはじめ、発行本社販売部社員ら約140人が3時間海岸を清掃、多い時で軽トラック15台分のゴミを回収している。

宮日会の活動に触発されて、地元青年団や建設業組合、航空自衛隊新田原基地なども清掃活動を実施するようになった。また、親子でアカウミガメの卵を観察する機会を設け、保護活動を啓蒙するなどのさまざまな波及効果を生んでいる。

*

宮崎日日新聞宮日会＝宮崎日日新聞を販売する126販売所長で組織。荒武正伸会長。



ゴミは町役場、販売所の当該委員会メンバーで随時軽トラックにて回収。最終的な分別は集積場で行う。



分別・処理風景



アカウミガメ産卵地の堀の内海岸を清掃する
宮日会会員ら



アカウミガメ 産卵地守ろう

宮日会が海岸清掃

高 鍋

宮崎日日新聞の県内百二十七販売所で行く宮日会（荒武正伸会長）は、役を立てていると思つといひ汗がかけられる。今年も人が参加し、県内有数のアカウミガメの産卵地である高鍋町の堀の内海岸を清掃奉仕した。

県の天然記念物アカウミガメの産卵地を守ろうと今年で八回目。参加者は全長約二千三百メートルの海岸を二手に分かれて清掃。砂に埋もれた冷蔵庫やテレビなどもあり、驚いていた。約一時間半の作業で軽トラック十五台分のゴミを回収した。

参加したえびの市の京町販売所長上原晴人さん（四三）は「アカウミガメの役に立っていると思うといひ汗がかけられる。今年も安心して産卵に来てほしい」と話していた。宮崎県野生動物研究会の石井正敏さん（六〇）は「同町南高鍋は「県内各地で砂浜の浸食が懸念されているが高鍋は大丈夫。産卵が始まる前に清掃していただきありがたい」と話していた。

同海岸には昨年百七十七頭が上陸。例年、五月中旬から八月中旬まで産卵に訪れるという。

宮崎日日新聞 平成18年5月16日付

清掃終了・記念撮影

